証券コード6859

エスペック株式会社

2026年度（2027年3月期）第2四半期決算説明

2026年11月20日
代表取締役社長　荒田 知

2026年度上期　決算概要

・通期予想の受注高・売上高を上方修正、利益面は据え置く。装置事業でサービス事業の減少をカバーし、期初の利益予想達成を目指す
・上期受注高は過去最高を更新、中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信分野を中心に各エリアで拡大、前年同期比・期初予想比で大幅増
・上期売上高は、前年同期比で増加も、大型案件や複数台一括といった長納期案件により、期初予想をやや下回る
・上期営業利益は、受注高の伸長に伴い販管費は増加したが、主に増収により前年同期比で増加、期初予想比では主に受託試験の減収により下回る

	前年同期比		期初予想比	
受注高	○	装置事業（すべての製品群）とその他事業が増加、サービス事業（受託試験）が減少	○	装置事業（主に環境試験器と半導体関連装置）とその他事業が上回る、サービス事業は受託試験が下回る
売上高	○	装置事業（環境試験器、エナジーデバイス装置）が増加、サービス事業（受託試験）とその他事業が減少	△	装置事業は大型案件や複数台一括といった長納期案件によりやや下回る、サービス事業とその他事業も下回る
営業利益	○	装置事業は増収により増加、サービス事業は受託試験の減収により減少、その他事業は減少	×	装置事業、サービス事業の減収により下回る
親会社株主に帰属する当期純利益	○	受託試験所統合に伴う減損損失を計上も、国内子会社移転に伴う固定資産売却益、営業利益の増加により増益	×	営業利益の未達により下回る

■ 株主還元　配当予想：中間45円、期末70円、年間115円　配当性向40.6%
自社株買い：2025年11月14日～2026年7月30日、90万株、32億円取得終了
2026年8月7日～2027年7月31日、上限130万株（発行済株式総数6.07%）、上限60億円を発表

2026年度通期 業績予想修正

（百万円）	2025年度	2026年度						
	通期実績	期初予想			上期実績	予想（11/12修正）		
		上期	下期	通期		下期	通期	前期比
受注高	72,596	35,800	34,200	70,000	46,582	36,417	83,000	+14.3%
売上高	70,034	33,800	39,200	73,000	32,751	42,249	75,000	+7.1%
売上原価 原価率	45,739 65.3%	21,650 64.1%	24,950 63.6%	46,600 63.8%	21,159 64.6%	26,990 63.9%	48,150 64.2%	+5.3% △1.1pt
売上総利益 利益率	24,295 34.7%	12,150 35.9%	14,250 36.4%	26,400 36.2%	11,591 35.4%	15,259 36.1%	26,850 35.8%	+10.5% +1.1pt
販管費 販管費率	17,210 24.6%	9,000 26.6%	9,400 24.0%	18,400 25.2%	8,751 26.7%	10,098 23.9%	18,850 25.1%	+9.5% +0.5pt
営業利益 利益率	7,084 10.1%	3,150 9.3%	4,850 12.4%	8,000 11.0%	2,839 8.7%	5,160 12.2%	8,000 10.7%	+12.9% +0.6pt
経常利益 利益率	7,473 10.7%	3,250 9.6%	4,850 12.4%	8,100 11.1%	3,032 9.3%	5,068 12.0%	8,100 10.8%	+8.4% +0.1pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	5,879 8.4%	2,300 6.8%	3,580 9.1%	5,880 8.1%	2,024 6.2%	3,856 9.1%	5,880 7.8%	+0.0% △0.6pt
1株当たり当期純利益（円）	270.39	107.63	167.54	275.17	96.10	187.21	283.31	+4.8%
ROE	10.0%	—	—	10.0%	–	–	10.0%	±0

2026年度通期 セグメント別の業績予想修正

（百万円）		2025年度	2026年度	2026年度			
		通期実績	通期期初予想	上期実績	予想（11/12修正）		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	62,216	59,450	40,870	31,579	72,450	+16.4%
	売上高	59,468	62,550	28,753	36,646	65,400	+10.0%
	営業利益	6,606	7,070	2,937	4,822	7,760	+17.5%
	利益率	11.1%	11.3%	10.2%	13.2%	11.9%	+0.8pt
サービス事業	受注高	8,294	9,200	4,198	4,201	8,400	+1.3%
	売上高	8,327	9,150	3,645	4,654	8,300	△0.3%
	営業利益	228	840	△36	186	150	△34.3%
	利益率	2.7%	9.2%	△1.0%	4.0%	1.8%	△0.9pt
その他事業	受注高	2,529	1,900	1,786	913	2,700	+6.8%
	売上高	2,747	1,850	584	1,265	1,850	△32.7%
	営業利益	239	90	△60	150	90	△62.4%
	利益率	8.7%	4.9%	△10.3%	11.9%	4.9%	△3.8pt
連結消去	受注高	△442	△550	△273	△ 276	△ 550	－
	売上高	△507	△550	△233	△ 317	△ 550	－
	営業利益	10	0	△1	2	0	－
計	受注高	72,596	70,000	46,582	36,417	83,000	+14.3%
	売上高	70,034	73,000	32,751	42,249	75,000	+7.1%
	営業利益	7,084	8,000	2,839	5,160	8,000	+12.9%
	利益率	10.1%	11.0%	8.7%	12.2%	10.7%	+0.6pt

2026年度上期　損益の状況

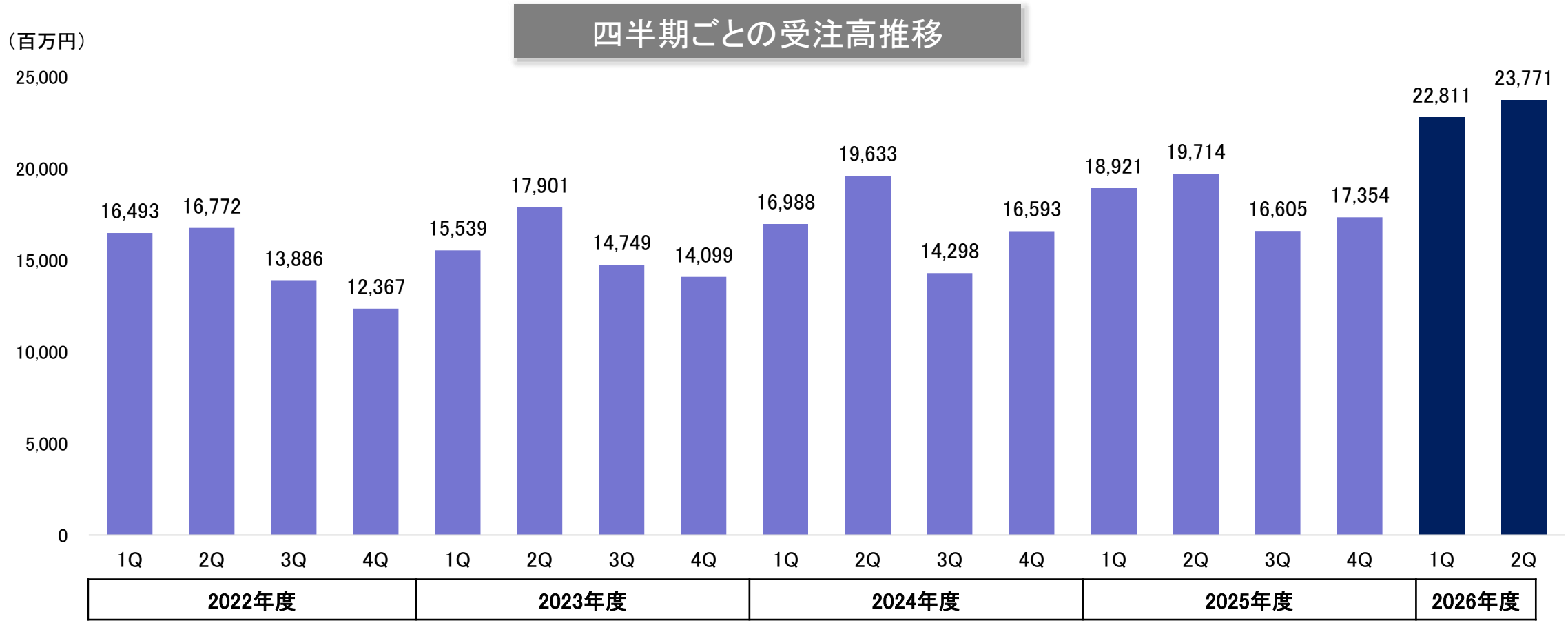
（百万円）	2025年度 上期実績	2026年度 上期予想	2026年度 上期実績	前年同期比	期初予想比
受注高	38,636	35,800	46,582	+20.6%	+30.1%
売上高	30,322	33,800	32,751	+8.0%	△3.1%
売上原価 原価率	19,767 65.2%	21,650 64.1%	21,159 64.6%	+7.0% △0.6pt	△2.3% +0.5pt
売上総利益 利益率	10,554 34.8%	12,150 35.9%	11,591 35.4%	+9.8% +0.6pt	△4.6% △0.5pt
販管費 販管費率	7,947 26.2%	9,000 26.6%	8,751 26.7%	+10.1% +0.5pt	△2.8% +0.1pt
営業利益 利益率	2,607 8.6%	3,150 9.3%	2,839 8.7%	+8.9% +0.1pt	△9.9% △0.6pt
経常利益 利益率	2,704 8.9%	3,250 9.6%	3,032 9.3%	+12.1% +0.4pt	△6.7% △0.3pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	1,912 6.3%	2,300 6.8%	2,024 6.2%	+5.8% △0.1pt	△12.0% △0.6pt

2026年度上期 セグメント別の損益の状況

（百万円）		2025年度 上期実績	2026年度 上期予想	2026年度 上期実績	前年同期比	期初予想比
装置事業	受注高	33,127	30,700	40,870	+23.4%	+33.1%
	売上高	25,887	29,350	28,753	+11.1%	△2.0%
	営業利益	2,551	3,010	2,937	+15.1%	△2.4%
	利益率	9.9%	10.3%	10.2%	+0.3pt	△0.1pt
サービス事業	受注高	4,224	4,500	4,198	△0.6%	△6.7%
	売上高	3,780	4,070	3,645	△3.6%	△10.4%
	営業利益	56	190	△36	–	–
	利益率	1.5%	4.7%	△1.0%	△2.5pt	△5.7pt
その他事業	受注高	1,500	850	1,786	+19.1%	+110.2%
	売上高	880	630	584	△33.6%	△7.2%
	営業利益	△2	△50	△60	–	–
	利益率	△0.3%	△7.9%	△10.3%	△10.0pt	△2.4pt
連結消去	受注高	△215	△250	△273	–	–
	売上高	△226	△250	△233	–	–
	営業利益	1	0	△1	–	–
計	受注高	38,636	35,800	46,582	+20.6%	+30.1%
	売上高	30,322	33,800	32,751	+8.0%	△3.1%
	営業利益	2,607	3,150	2,839	+8.9%	△9.9%
	利益率	8.6%	9.3%	8.7%	+0.1pt	△0.6pt

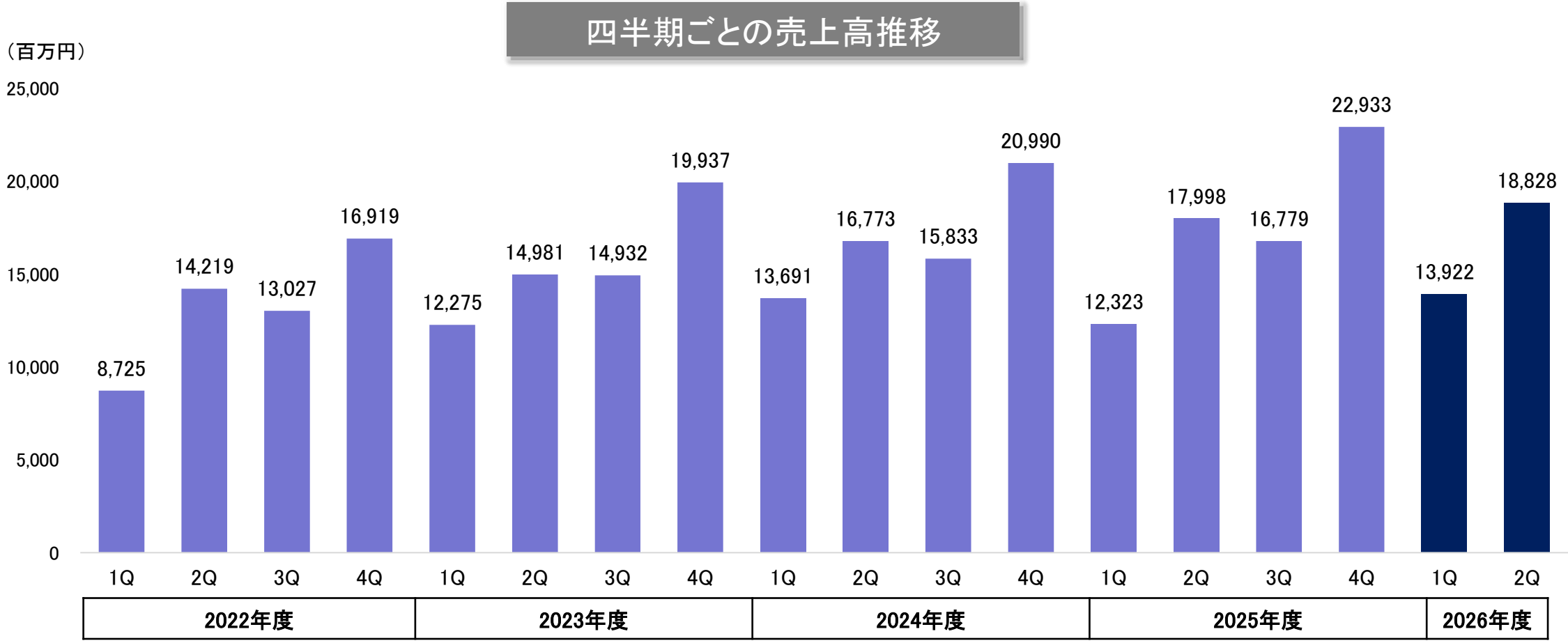
四半期ごとの受注高推移

■受注高は、AI半導体、衛星通信分野を中心に好調に推移、2Qは1Qに続き200億円超
　エリアでは、中国、北米が大幅に増加、日本、台湾、欧州、東南アジア、韓国も増加



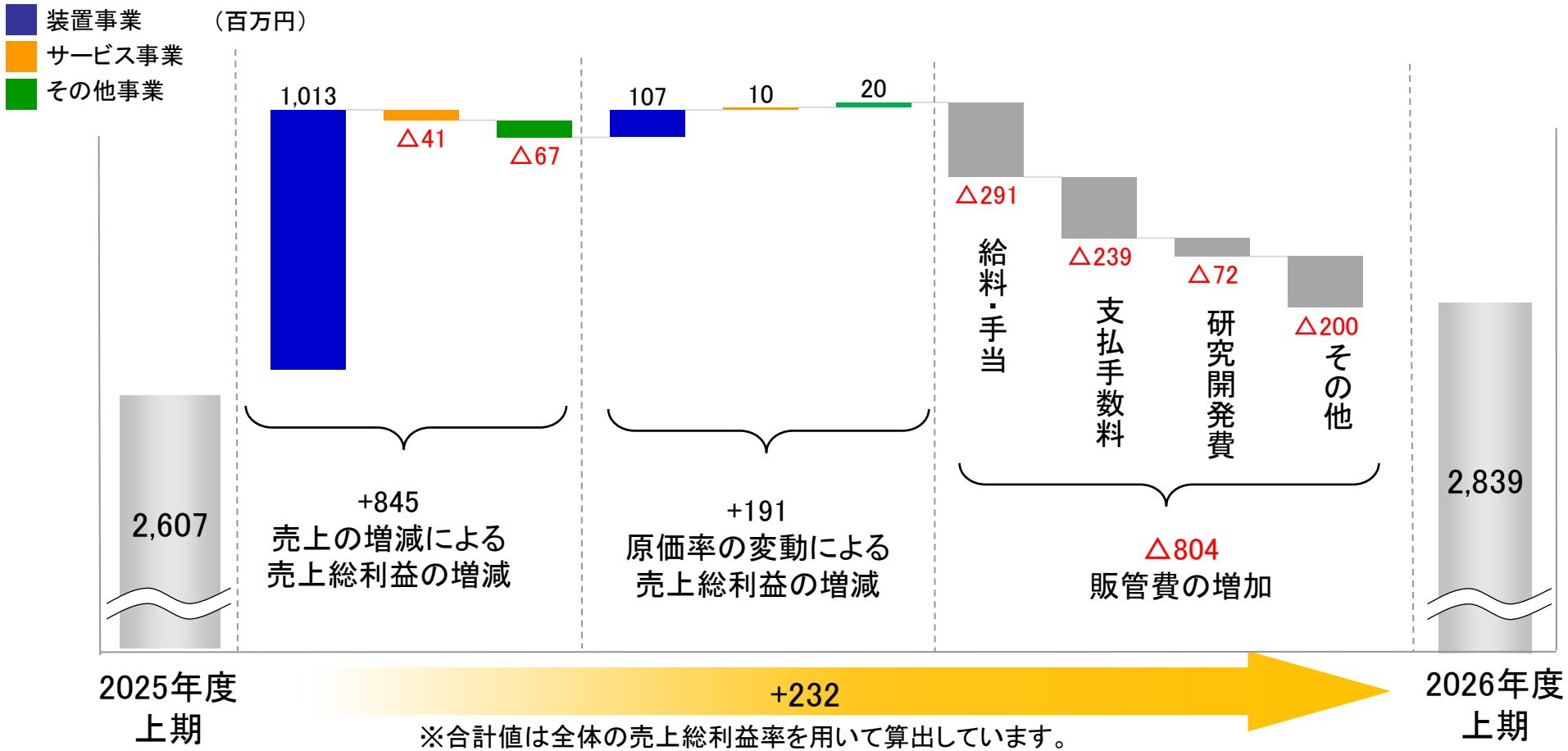
四半期ごとの売上高推移

■売上高は、1Qから2Qへ期ずれした大型案件を含め、装置事業の売上計上を進め、上期売上高は前年同期比で増加
エリアでは、北米、東南アジアが大幅に増加、中国、欧州、台湾も増加、日本は前年同期並み、韓国は減少



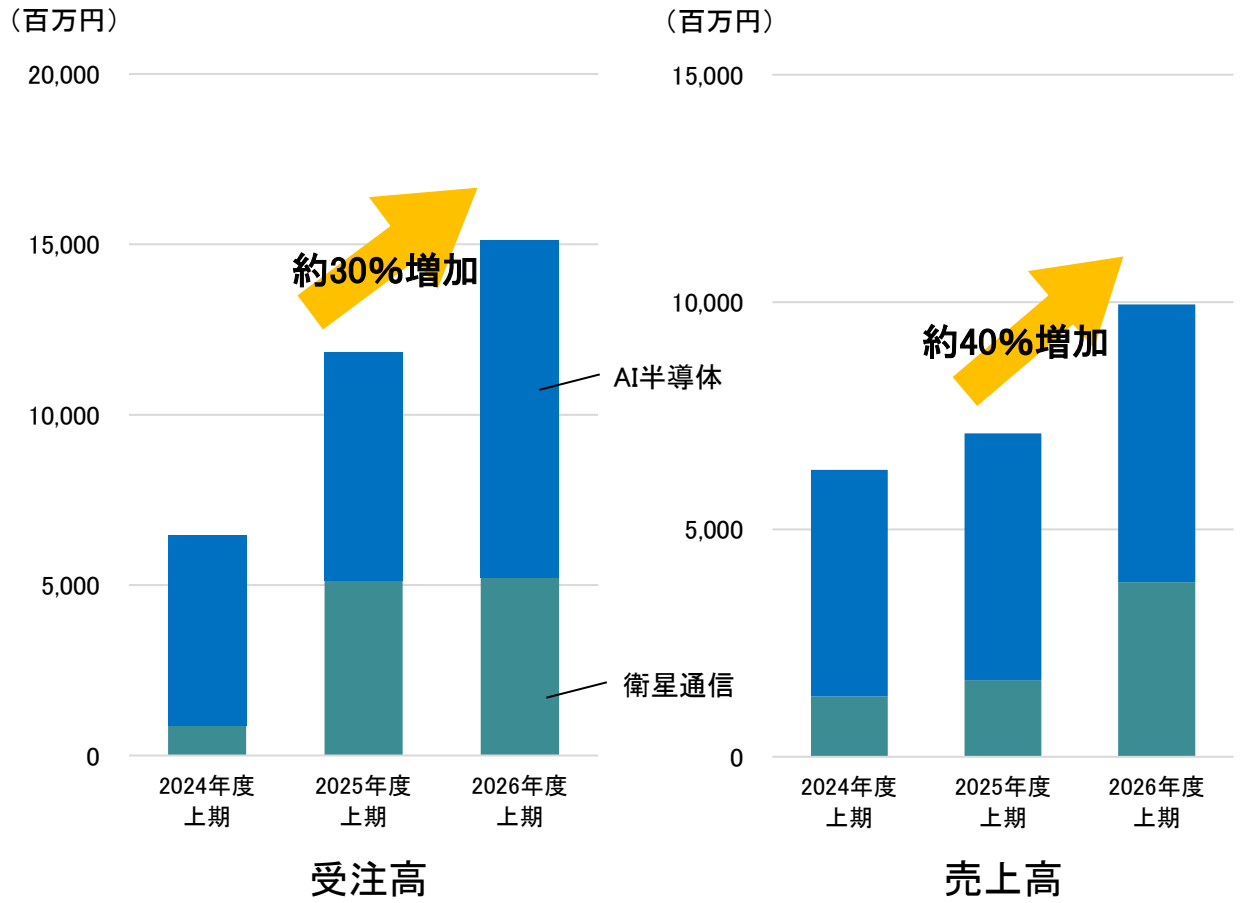
上期営業利益の増減要因分析

・装置事業は、受注高の伸長に伴い販管費が増加したが、主に増収効果により増益
・サービス事業は、アフターサービスにおいて技術料改定により収益性の改善が進んだものの、受託試験の減収により減益



中計 ターゲット市場の試験需要と開拓状況

■ターゲット市場（AI半導体、衛星通信）の受注高は前年同期比で約30%増加、売上高は約40%増加
　AI半導体は日本、東南アジア、台湾、韓国など各国で増加、衛星通信は北米にて高水準を維持



	試験対象	主な提供製品	エリア
AI半導体分野	AIサーバー 半導体 電子部品 電子材料	恒温恒湿器・恒温恒湿室 ハイパワー恒温恒湿器 急速温度変化チャンバー 冷熱衝撃装置 高度加速寿命試験装置 HDD検査装置 バーンインチャンバー 計測システム	日本 東南アジア 台湾 韓国 中国 北米
衛星通信分野	低軌道衛星（LEO） 人工衛星搭載 機器・部品	HALT/HASS試験装置 恒温恒湿器・恒温恒湿室 恒圧恒温恒湿器 ハイパワー恒温恒湿器 冷熱衝撃装置	北米 日本

※2026年度2Qより「自動運転分野」は「AI半導体分野」に統合しました

ターゲット市場

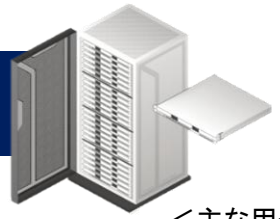
＜AI半導体市場＞　サーバー、半導体、電子部品、電子材料

生成AIが社会全体に広まるなか、AIサーバーやサーバーを構成する半導体、電子部品、電子材料の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



データセンター

AIサーバー



＜主な納入先＞
・サーバーメーカー
・ハイパフォーマンス
　コンピューティング（HPC）メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



AIサーバー向け
高発熱負荷対応恒温恒湿室

半導体

GPU・メモリ・ロジック

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー



＜主な用途＞
加速寿命試験
スクリーニング（検査）



急速温度変化チャンバー

電子部品

コンデンサ・半導体基板・電源

＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・半導体基板メーカー



＜主な用途＞
電気的特性評価（導通等）
動作試験



高度加速寿命試験装置
（HAST CHAMBER）

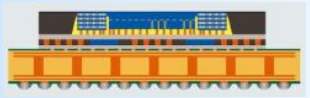


計測評価システム

電子材料

基板材料・絶縁材料

＜主な納入先＞
・材料メーカー
（基材、レジスト材、モールド材等）



＜主な用途＞
材料特性評価（吸湿等）
保存試験



バーンインチャンバー

ターゲット市場

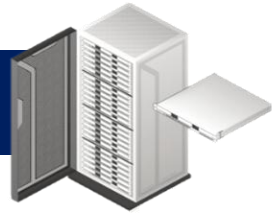
＜AI半導体市場＞　光電融合技術（CPO: Co-Packaged Optics）

光電融合技術は半導体と光通信用の光学コンポーネントを同一パッケージ基板上に統合する技術です。
サーバーの消費電力削減や通信速度向上に有効な技術として注目されており、
光学コンポーネントや実装技術の開発、信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。

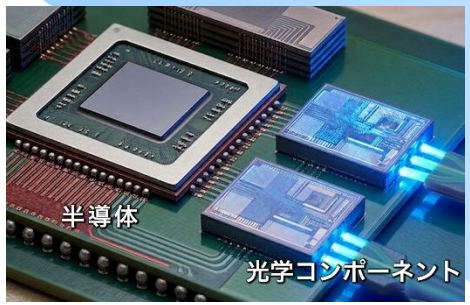


データセンター

AIサーバー



光電融合技術
（Co-Packaged Optics）



半導体と光学コンポーネントを
同一パッケージ基板上に統合

半導体

GPU・CPU

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー



＜主な用途＞
パッケージ信頼性評価

光学コンポーネント

変調器、検出器、コネクタ

＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・電線メーカー



＜主な用途＞
耐久性評価（温湿度）
信頼性評価



冷熱衝撃装置



急速温度変化チャンバー



ハイパワー
恒温恒湿器



小型環境試験器

ターゲット市場

＜衛星通信市場＞　人工衛星（低軌道衛星）、人工衛星搭載機器・部品

民間企業の商用衛星通信技術の分野において、低軌道衛星（LEO）や人工衛星に搭載される通信機器や半導体、電子部品の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



人工衛星

低軌道衛星（LEO）

高度　　：数百～2,000km
地上エリア：半径 数百km

＜主な納入先＞
・通信衛星メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



HALT/HASS　Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）

人工衛星搭載機器

電源装置・通信機器・姿勢制御

＜主な納入先＞
・電源機器メーカー
・通信機器メーカー
・観測機器メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価

人工衛星搭載部品

半導体・太陽光パネル・電池

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・電子部品メーカー
・電池メーカー

＜主な用途＞
認定試験
スクリーニング（検査）



HALT/HASS
Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）



Global-N
Temperature Cycling Chambers
（温度サイクル試験装置）



Platinous Series
Temperature and Humidity Chambers
（恒温恒湿器）



冷熱衝撃装置



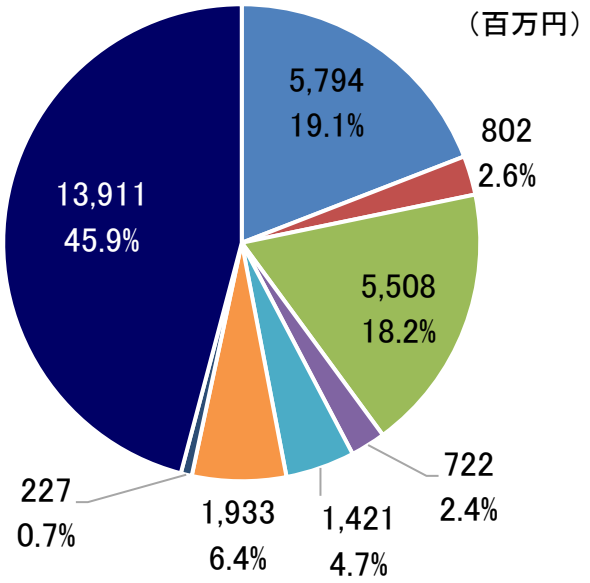
恒圧恒温（恒湿）器
MZシリーズ

地域別売上構成比

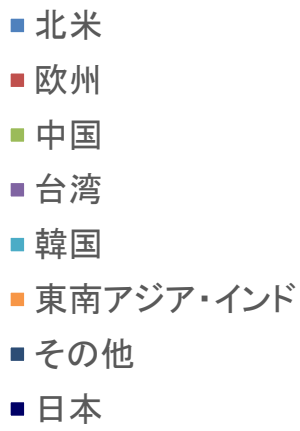
■売上高は北米、東南アジアが大幅に増加、中国、欧州、台湾も増加、日本は前年同期並み、韓国は減少

2025年度 上期

海外売上高比率：54.1%

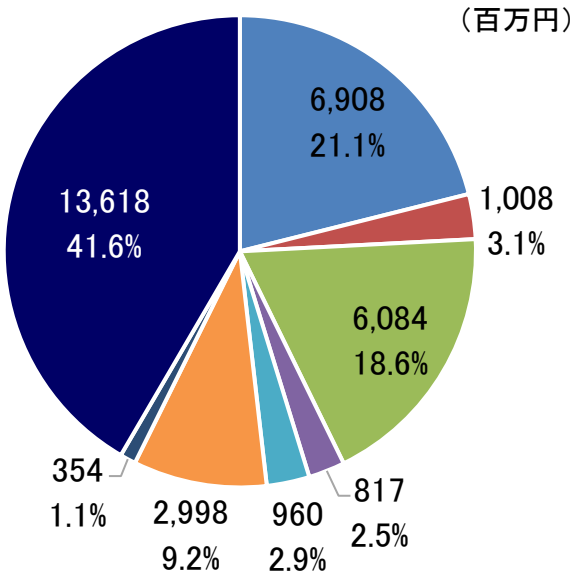


計　30,322百万円
海外：16,410百万円
国内：13,911百万円



2026年度 上期

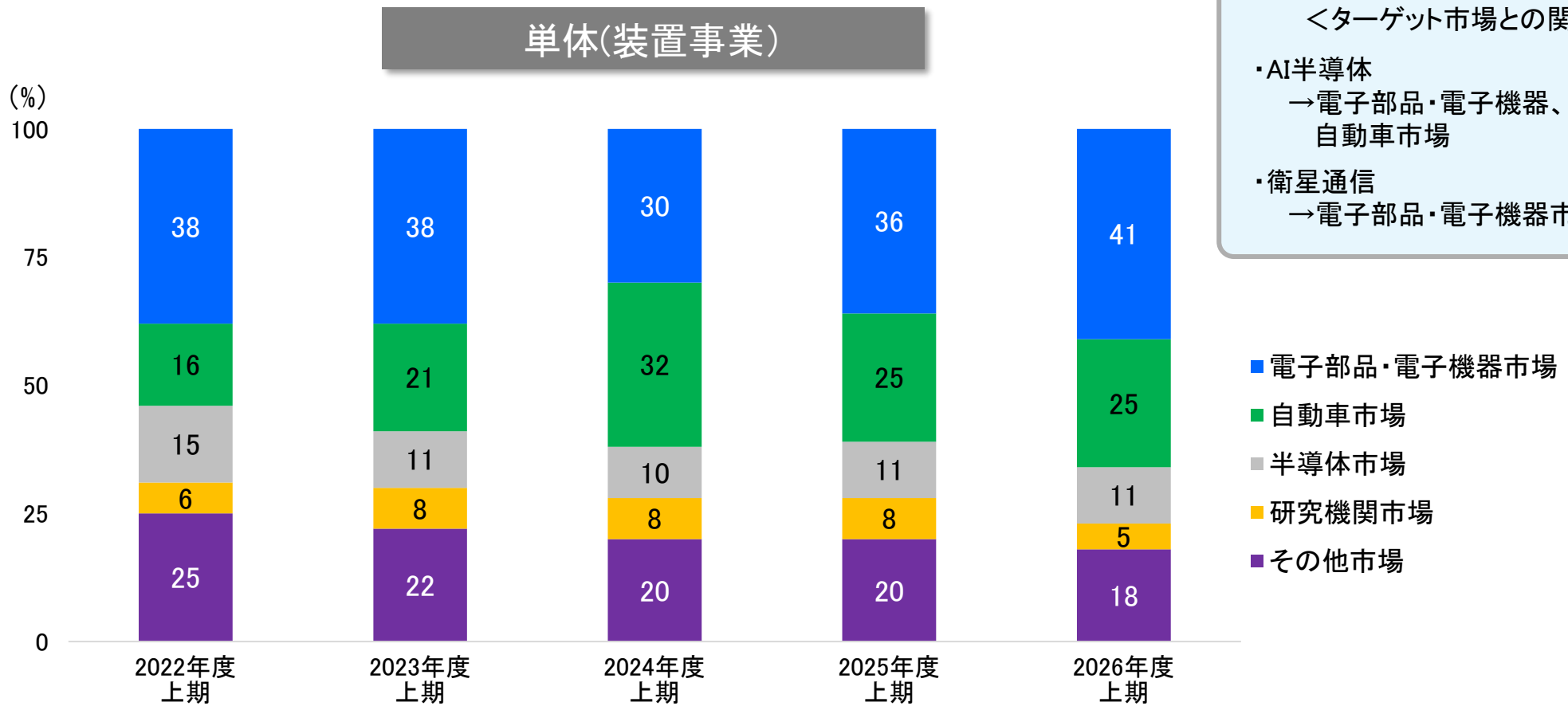
海外売上高比率：58.4%



計　32,751百万円
海外：19,132百万円
国内：13,618百万円

市場別売上構成比

■電子部品・電子機器市場は、AI半導体関連の試験需要が堅調に推移し、構成比が上昇
　自動車市場は、大型案件の計上により前期並みの構成比を維持



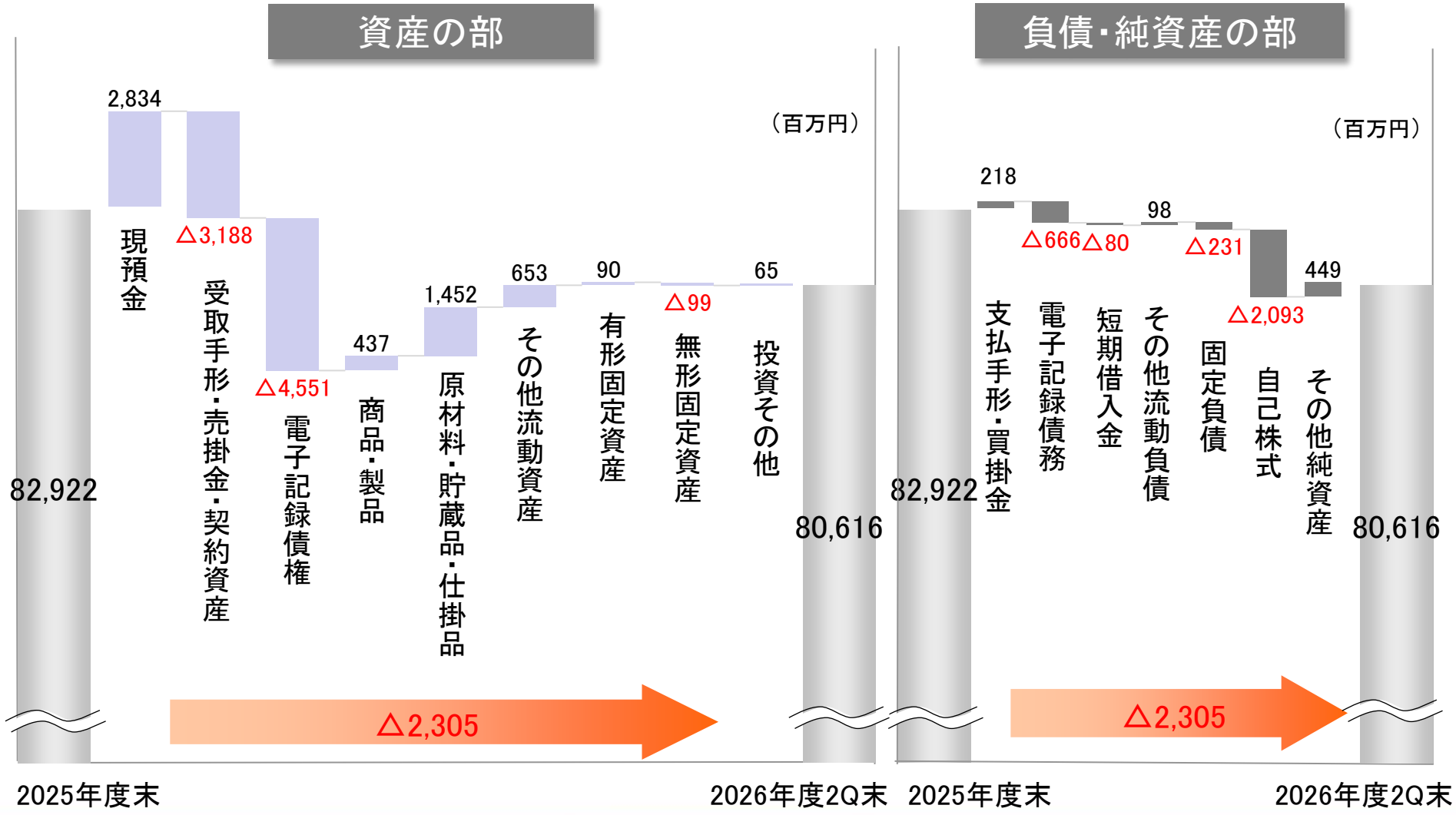
＜ターゲット市場との関連＞

・AI半導体
　→電子部品・電子機器、半導体、自動車市場

・衛星通信
　→電子部品・電子機器市場

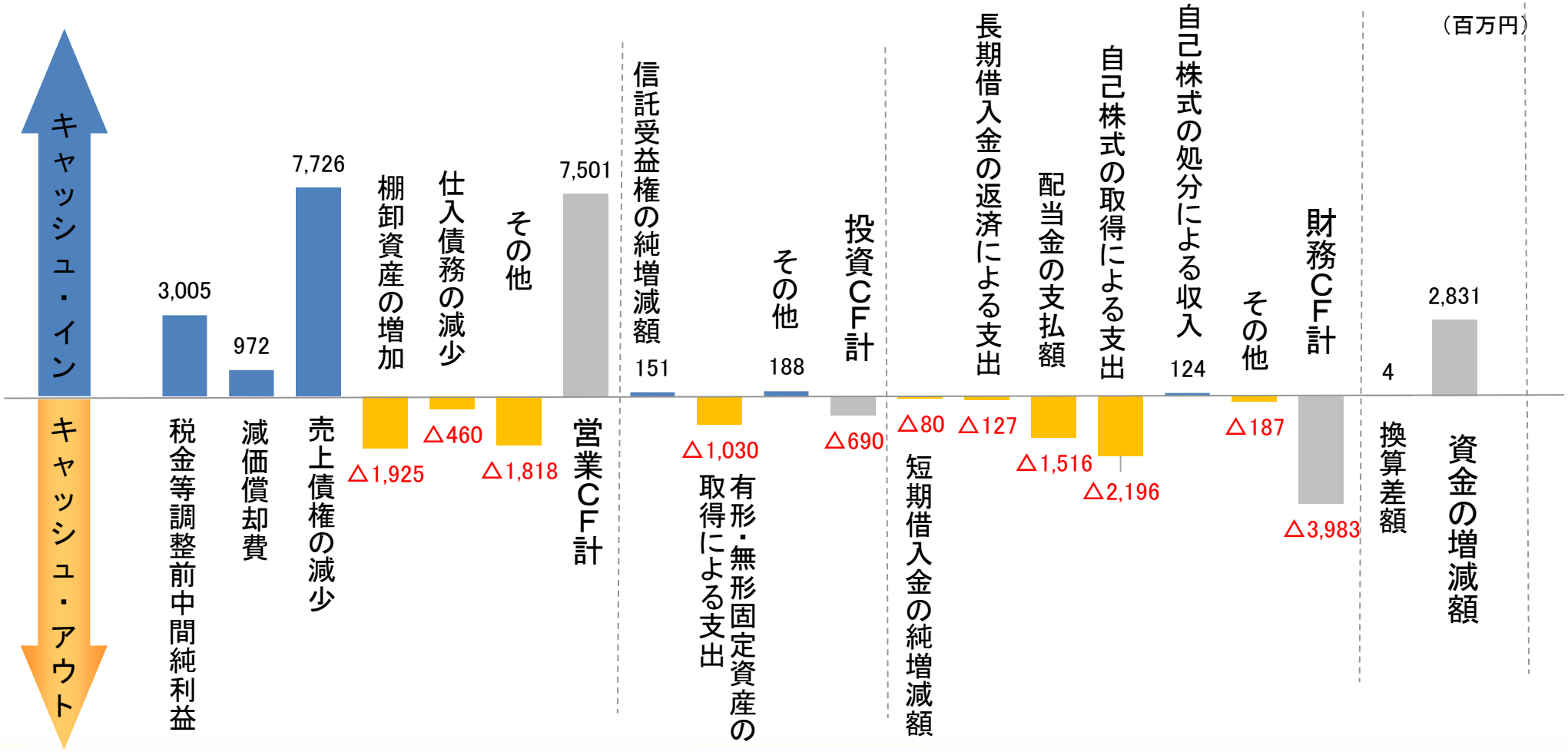
資産・負債の状況

■ 主に売上債権の回収が進んだことにより、総資産は約23億円減少



キャッシュフローの状況

・営業CFは、税金等調整前中間純利益の計上や売上債権の減少などにより、75億円のキャッシュイン
・投資CFは、固定資産取得による支出などにより、6.9億円のキャッシュアウト
・財務CFは、配当金の支払いと自己株式取得により39億円のキャッシュアウト、資金は約28億円増加



装置事業セグメント

（百万円）	2025年度 上期実績	2026年度 上期予想	2026年度 上期実績	前年同期比	期初予想比
受注高	33,127	30,700	40,870	+23.4%	+33.1%
売上高	25,887	29,350	28,753	+11.1%	△2.0%
営業利益 利益率	2,551 9.9%	3,010 10.3%	2,937 10.2%	+15.1% +0.3pt	△2.4% △0.1pt

環境試験器

■ 国内では、電子部品・電子機器の試験需要が堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

■ 海外では、受注高は前年同期比で中国、北米において大幅に増加するとともに、台湾、欧州、東南アジア、韓国も増加
売上高は北米、東南アジア、中国、欧州、台湾が増加、韓国は減少

エナジーデバイス装置

■受注高は、車載用や二輪用バッテリーに加え、データセンター向け蓄電池の案件を獲得し、前年同期比で大幅に増加
売上高は、車載用バッテリーの大型案件を計上したことにより大幅に増加

半導体関連装置

■受注高は、日本および中国において試験需要が堅調に推移し、前年同期比で大幅に増加
売上高は、前年同期に大型案件の売上計上があったことから、前年同期比で減少

サービス事業セグメント

（百万円）	2025年度 上期実績	2026年度 上期予想	2026年度 上期実績	前年同期比	期初予想比
受注高	4,224	4,500	4,198	△0.6%	△6.7%
売上高	3,780	4,070	3,645	△3.6%	△10.4%
営業利益 利益率	56 1.5%	190 4.7%	△36 △1.0%	－ △2.5pt	－ △5.7pt

アフターサービス・エンジニアリング

■予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

■受託試験サービスにおいて、半導体やAIサーバー、航空機器関連市場を強化したものの
自動車関連の投資抑制の影響を受け、前年同期比で受注高・売上高ともに減少

その他事業セグメント

（百万円）	2025年度 上期実績	2026年度 上期予想	2026年度 上期実績	前年同期比	期初予想比
受注高	1,500	850	1,786	+19.1%	+110.2%
売上高	880	630	584	△33.6%	△7.2%
営業利益 利益率	△2 △0.3%	△50 △7.9%	△60 △10.3%	－ △10.0pt	－ △2.4pt

環境保全・植物育成装置

■受注高は、環境保全事業において、緑地管理の大型案件を獲得し、前年同期比で増加
　売上高は、前年同期に大型植物工場の売上計上があったことから、前年同期比で減少

2026年度 環境認識

中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信分野を中心にグローバルに試験需要獲得を進める

装置事業	環境試験器	日本 ：半導体・エレクトロニクスが堅調 中国 ：半導体・エレクトロニクスが堅調 東南アジア：半導体・エレクトロニクスが堅調 インド：自動車、半導体が堅調 北米 ：衛星通信を中心に好調 欧州 ：航空宇宙、半導体を中心に回復基調
	エナジーデバイス装置	EV向け投資は低調、ESS（定置用蓄電池）の需要に期待
	半導体関連装置	汎用メモリ半導体、先端半導体（CPU、GPU、HBMなど）ともに堅調
サービス事業	アフターサービス 受託試験・レンタル	アフターサービス ：点検校正が堅調 受託試験 ：自動車は低調、半導体、AIサーバー、航空機器関連は堅調
その他事業	環境保全 植物育成装置	環境保全事業が堅調

2026年度 投資計画

（百万円）	2025年度	2026年度 予想			
	通期実績	上期実績	下期	通期	前期比
設備投資額	2,004	1,296	2,624	3,920	+95.5%
減価償却費	1,957	963	1,117	2,080	+6.3%
研究開発費	1,521	803	1,267	2,070	+36.1%

主な投資内容
- ・福知山工場リノベーション
- ・北米子会社生産エリア拡張

主な開発内容
- ・AI半導体分野向け製品ラインアップ拡充
  （主力製品のモデルチェンジ、機種追加）
- ・環境配慮型製品の拡充

2026年度 想定為替レート

■想定為替レート

	2024年度	2025年度		2026年度	
	通期実績	上期実績	通期実績	上期実績	通期想定
USドル（円）	152.62	146.03	150.67	159.49	155
ユーロ（円）	163.87	168.05	174.64	184.42	180
元（円）	21.11	20.29	21.22	23.54	22

2026年度為替感応度

（百万円）

	売上高	営業利益
USドル	+97	+14
ユーロ	+15	+8
元	+50	+6

※1円円安（元は0.1円）変動時の影響

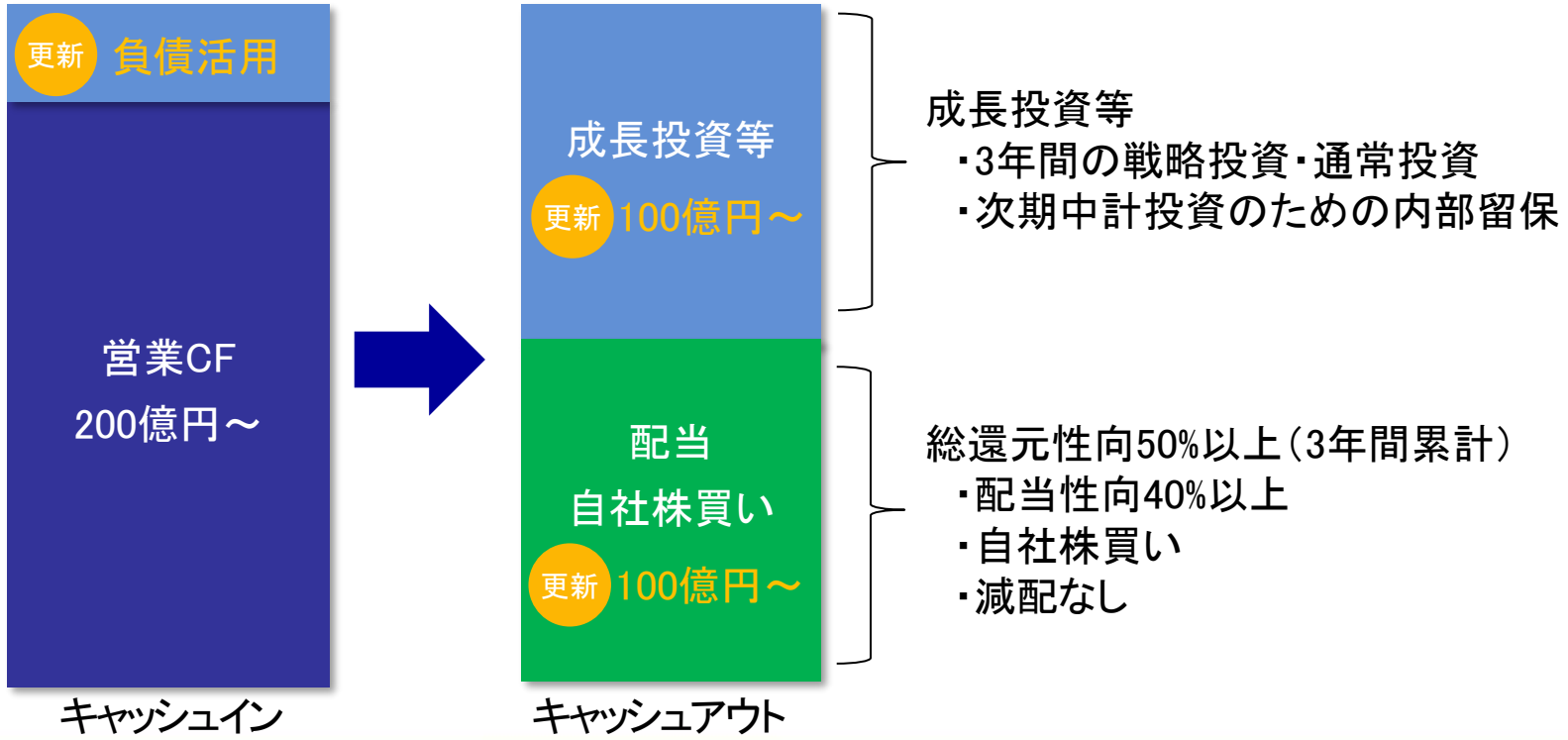
キャッシュ・アロケーション（2025～2027年度）

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元に積極的に配分する

※2026年5月更新

資本効率を重視し、成長投資や企業価値向上に向けて必要に応じて負債を活用する
株主還元として自社株買いについても機動的に判断し、実施する



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

※2026年5月14日開示

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を更新
財務資本戦略強化により資本収益性を高め、中計目標2027年度ROE12%以上の達成を目指す

方針

※下線は2026年5月更新内容

・中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の 2027 年度目標（売上高760億円、営業利益91億円、営業利益率12.0%、当期純利益67億円、ROE12.0%以上）の達成を目指す

・営業利益率の向上と総資産の効率化によるキャッシュの創出と必要に応じた負債の活用

・資本効率を重視したBSマネジメントとして、自己資本比率70%以内、手元流動性3カ月以内を指標とし、資本をコントロールする

・3年間のキャッシュアロケーション方針に基づき、成長投資と株主還元を積極的に行う

主な取り組み

①収益性の向上	AI半導体や自動運転、衛星通信分野をターゲットとした成長戦略の実行、収益力の強化
②財務戦略 株主還元	棚卸資産の適正化と売上債権の圧縮、資本のコントロール 株主還元方針（P.25）に基づく積極的な株主還元の実施
③IR活動の強化	株式市場での評価向上および経営強化に向けた株主・投資家との対話充実

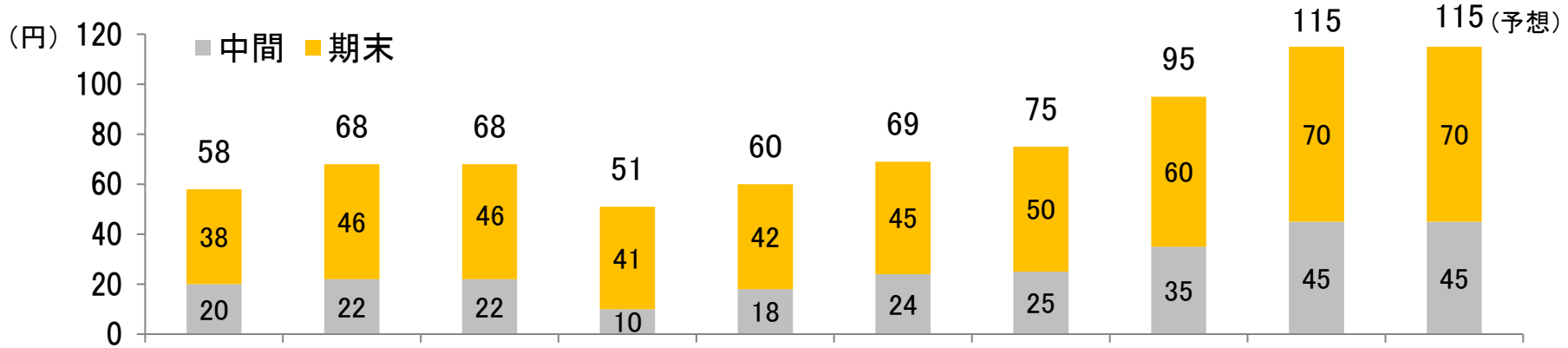
株主還元方針と2026年度配当予想

株主還元方針

配当性向を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施
中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」（2025～2027年度）の期間は、3年間累計で総還元性向を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

2026年度は年間115円、配当性向40.6% を予想。2026年8月6日、自社株買いを発表（2026年8月7日～2027年7月31日、
上限130万株：発行済株式総数6.07%、上限60億円を予定）



	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	（年度）
配当性向	40.1%	36.2%	55.2%	59.4%	70.7%	45.9%	33.0%	34.5%	42.5%	40.6%	
総還元性向	40.1%	36.2%	55.2%	59.4%	126.9%	78.9%	33.0%	34.5%	75.3%	－	（下線部は自社株買いを実施）

自己株式の消却に関する基本方針

自己株式の保有上限は発行済株式総数の10%程度とし、保有上限を超過した場合は原則として超過相当分を消却する

2026年度 事業の主な取り組み

装置事業

・ターゲット市場におけるさらなる試験需要の獲得と生産対応
・試験要求に適合した高付加価値製品の開発、市場投入
・カスタマイズ容易性向上による製品リードタイム短縮

グローバル戦略

日本　：AI半導体、衛星通信分野の営業活動強化、買い替え需要の獲得
北米　：衛星通信分野の販売強化、生産能力増強による収益拡大
中国　：半導体、電子部品・電子機器分野への販売強化

サービス事業

アフターサービス：点検校正の拡販、稼働率改善による利益向上
受託試験　　：半導体、AIサーバー、航空機器関連の受注獲得、収益改善

2026年度 ESGの主な取り組み

■E（環境）

・第8次環境中期計画　Plus Ⅱ（2026～2027年度）の推進

地球温暖化対策の強化、生物多様性保全の推進、資源循環の推進と化学物質管理の強化、開示情報の充実（CDP、TCFD、TNFD）

■S（社会）

・ビジョン実現型人事制度の定着、インターナルコミュニケーションの推進

・ワークシェア制度の導入、健康経営の推進

・経営補佐職層向け株式報酬制度の運用開始

■G（ガバナンス）

・グループガバナンスの強化

・サプライチェーンリスク対策

・リスクマネジメントの強化

TOPICS 1

AI半導体市場向け製品

■低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」

・低電流で微小抵抗変動を捉える評価システム
・先端パッケージ開発におけるマイクロビアやインターポーザー
　などの微細配線・接合部の信頼性評価を支援



低電流導体信頼性評価システム AMR-SPM

■低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」

・低電圧領域の絶縁劣化をより高精度に捉える評価システム
・先端パッケージに採用される10V以下の低電圧印加と、
　低電圧領域で発生する絶縁劣化に対応



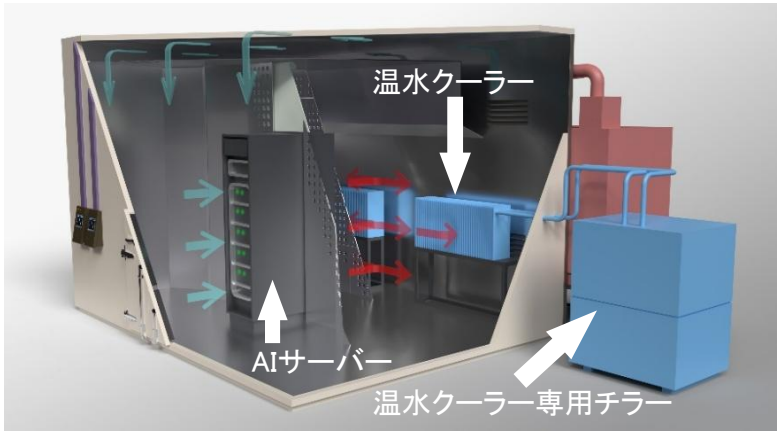
低電圧絶縁信頼性評価システム　AMI-SPM

AIサーバー市場向け製品

■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

・2025年12月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
・サーバーによる発熱負荷（30kW、60kW）に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能

＜AIサーバーの試験イメージ＞



新たに開発した空調システムにより、省エネ・省スペース化を実現



高発熱負荷対応
恒温恒湿室ウォークインチャンバー

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター
「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

・2026年4月、神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞
・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた屋上草地、
　2つの池と小川からなるビオトープを設置
・2023年10月には、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録


表彰状

エスペック株式会社神戸R&Dセンター殿

貴殿は多年にわたり緑豊かな
地域社会づくりに励み緑化の
推進に尽くした功績は誠に
顕著であります
よってこれを表彰します

令和八年四月二十四日

内閣総理大臣 高市早苗



※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

社外からの評価

■ ESG関連の評価

・ESG指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
　ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数」組み入れ

・CDP 気候変動分野の調査で「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」
　「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
　「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」 3つ星

・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞

・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得

・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
　「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

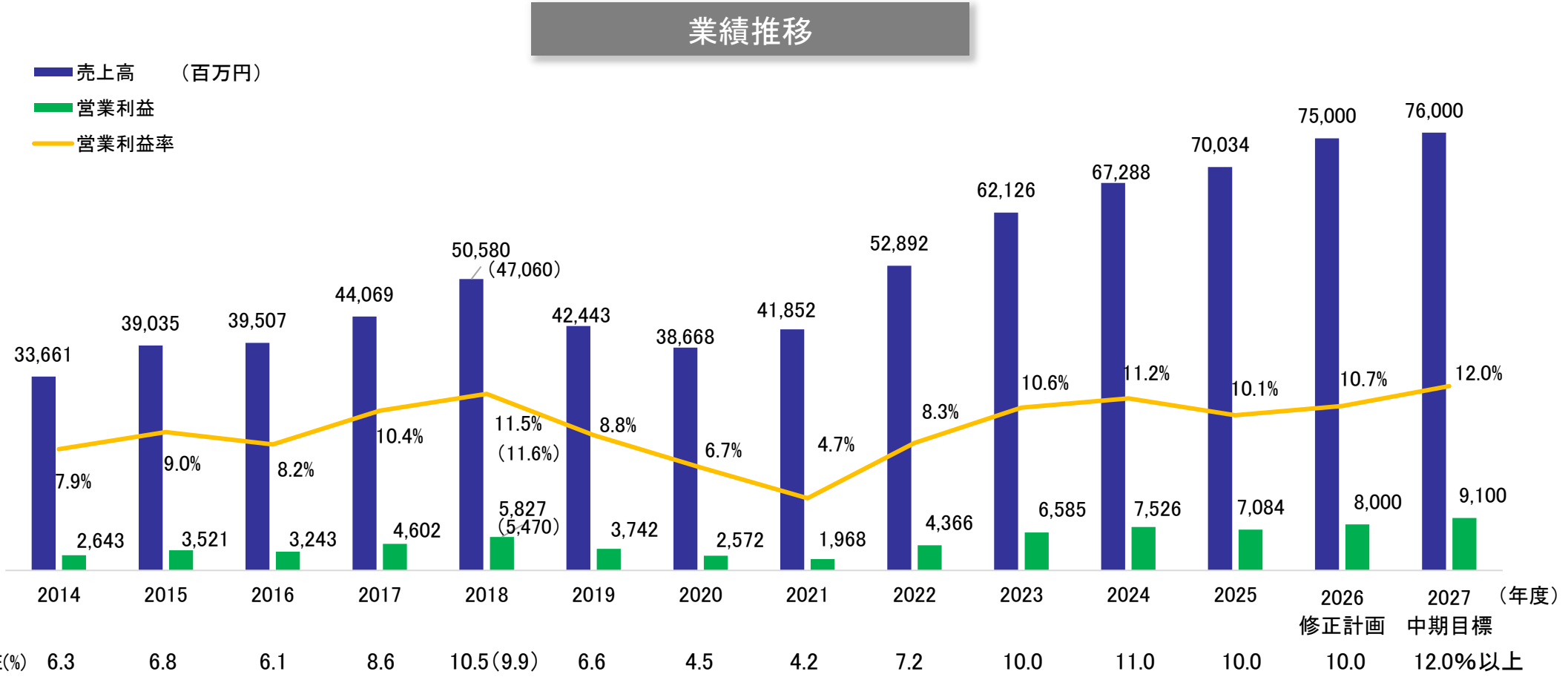
・「Gomez IRサイトランキング」 銀賞（業種別5位）

・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業

・「大和インターネット IR表彰」 優良賞

・ 日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」 最優秀サイト

業績推移



※ 2018年度は海外連結会社の決算期間が15ヵ月の変則決算、（ ）は海外連結会社の決算対象期間が12ヵ月であった場合の参考値

証券コード6859

参考資料

会社紹介・事業概要

2026年11月20日
エスペック株式会社

会社概要

［ 環境試験器の世界トップメーカー ］

会　社　名	エスペック　株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	代表取締役社長 荒田　知　（あらた　さとし）
創業年月日	1947年（昭和22年）7月25日
設立年月日	1954年（昭和29年）1月13日
資　本　金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,898名（連結）
事業内容	環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など
環境試験器シェア	世界30%以上　　国内60%以上　※シェアは当社推定



本社

（2026年3月31日現在）

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

＜1950年代＞
日本で民生品の環境試験がJIS規格化




＜1970年代～1990年代＞
「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大





＜現在＞
デジタル化、脱炭素化を背景にAI・IoTや次世代自動車の開発分野での需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー

世界シェア No.1

経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞
（2013年度、2020年度）

国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

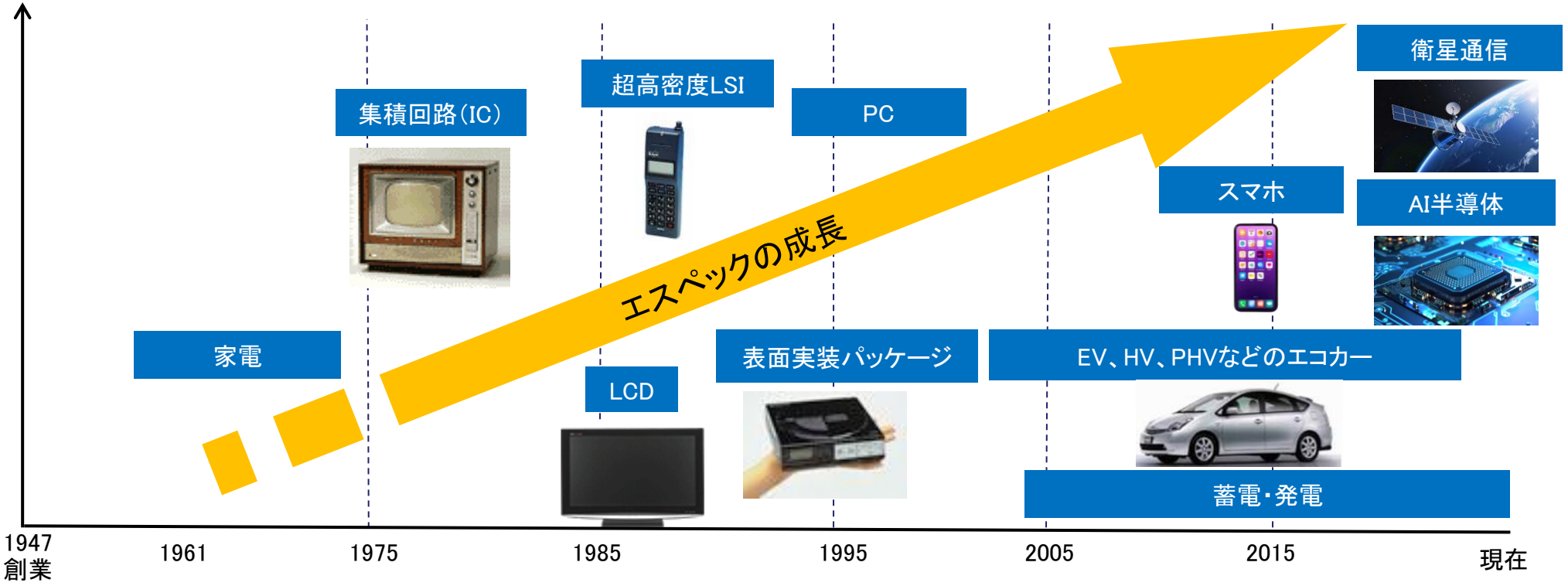
※シェアは当社推定



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

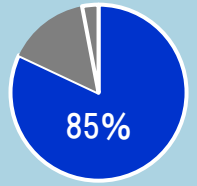
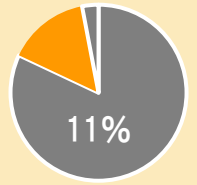
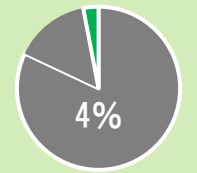
環境試験器で培った「環境創造技術」を軸に事業を拡大



事業の拡大

1961年	1982年	1986年	1994年	2011年	2015年
環境試験器開発	半導体試験装置事業参入	FPD装置事業参入	計測システム事業参入	電池専用装置事業参入	バッテリー安全認証ビジネス開始

事業概要（各事業の市場／用途）

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2025年度
装置事業	環境試験器	・恒温恒湿器　・恒温恒湿室 ・冷熱衝撃装置　・複合環境試験機 ・小型環境試験器　・HALT試験装置 ・HASTチャンバー	・電子部品、電子機器 ・自動車　・半導体 ・衛星通信 ・医薬品、食品等	・R＆D7割 ・信頼性評価 2割 ・生産、検査1割	
	エナジーデバイス装置	・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置	・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池	・R＆D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産	
	半導体関連装置	・バーンイン装置　・計測システム	・半導体　・電子部品 ・自動車	・R＆D ・信頼性評価 ・生産、検査	
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	・修理・予防保全　・機器周辺工事 ・点検・校正	・電子部品、電子機器 ・自動車　・半導体 ・航空機器	―	
	受託試験レンタル	・受託試験　・機器レンタル ・リセール　・校正		・R＆D ・信頼性評価	
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化			
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など			

事業概要: 装置事業

先端技術の発展を支える環境試験の総合ソリューションを提供

※シェアは当社推定

環境試験器

国内シェア60%以上　世界シェア30%以上※

電子部品、電子機器、自動車、半導体、衛星通信、医薬品、食品など幅広い分野において、先端技術開発・信頼性評価・生産・検査工程を支える製品を提供

温度、湿度、圧力の範囲や、温度変化速度、
大きさなどに応じて、多彩なラインアップをそろえている



恒温恒湿器　プラチナスJシリーズ



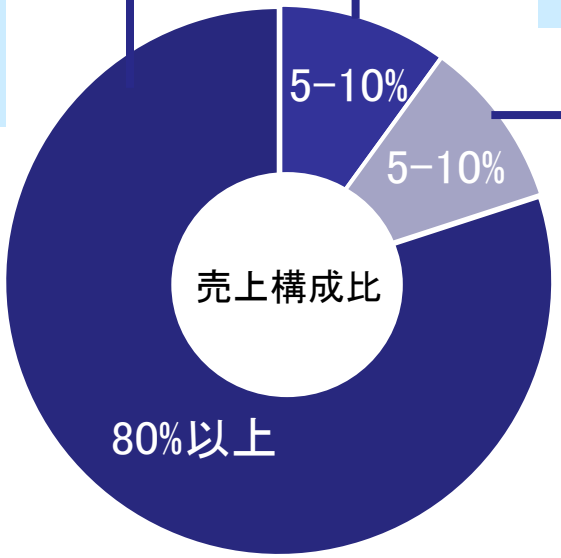
冷熱衝撃装置



恒温(恒湿)室　ウォークインチャンバー



小型環境試験器



半導体関連装置

半導体検査工程において良品・不良品を選別するバーンイン装置、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システムを提供



計測評価システム



バーンインチャンバー

エナジーデバイス装置

二次電池の性能や寿命の評価を行う二次電池充放電サイクル評価装置、安全性評価装置や、燃料電池評価装置を提供



二次電池充放電評価システム



充放電専用恒温槽

事業概要：サービス事業

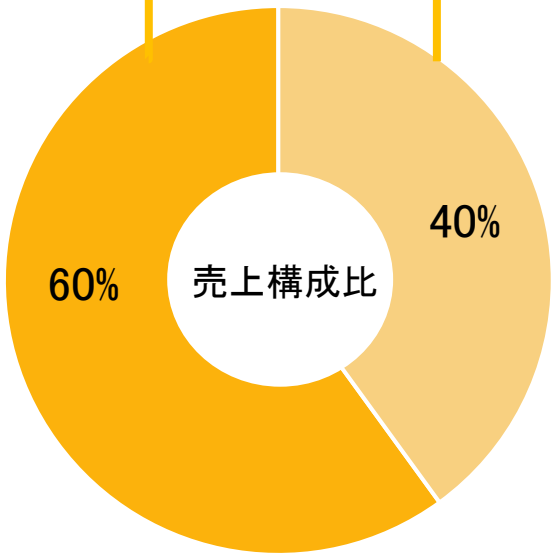
お客さまのお困りごとを解決するサービスを提供、
各種規格に応じたお客さまの試験をトータルにサポート

アフターサービス・エンジニアリング

・お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう
　製品のメンテナンスや予防保全を実施
・設置・移設、周辺工事、周辺機器の販売を行う
・クラウドを活用したネットワークサービスを提供







受託試験・レンタル

・各業界特有の評価ニーズに最適なソリューション
　を提案し、当社試験所にて顧客の環境試験を代行
・環境試験器のレンタル・リセールおよび計測機器の
　校正サービスを行う

■受託試験の試験領域：
・自動車
・航空・eVTOL（電動垂直離着陸機）
・半導体　　等
・二次電池
・電子部品、電子機器



国内5カ所（宇都宮・常滑・豊田・刈谷・神戸）
中国2カ所（上海・蘇州）、タイ1カ所に試験所を設置

GREEN POWER

国内の試験所で実施する受託試験は
100%再生可能エネルギーで提供

事業概要：その他事業

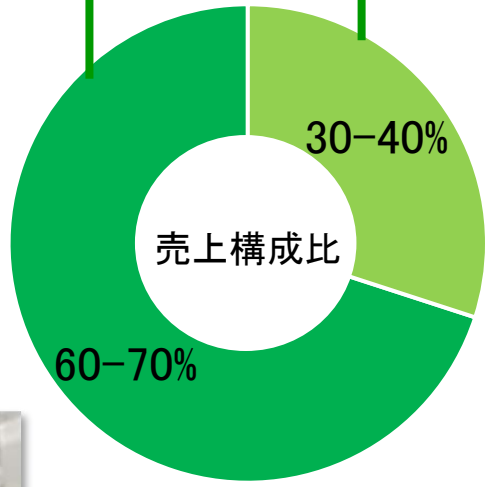
植物育成装置

光や温湿度、養分などを管理する植物工場や
研究用育苗装置を提供





乾燥地植物気候変動応答実験設備
（鳥取大学 乾燥地研究センター）



環境保全

地域の在来種にこだわった森づくりや水辺づくり



エスペックの強み

トップシェア

・シェアは世界30%以上、国内60%以上（当社推定）

・国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外でブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発

・多品種少量生産を可能とする生産技術力

・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験のトータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

・充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した製品をグローバルに提供

連結子会社　　：13社（海外9社、国内4社）
海外生産拠点　：北米1社、中国2社、韓国1社
海外ネットワーク：50ヵ所（国・地域）44社

グローバルネットワーク

連結子会社　13社
（海外9社、国内4社）

海外ネットワーク
50カ所（国・地域）44社

国内営業・サービス拠点 16カ所
国内代理店　46社



欧州

●ESPEC EUROPE GmbH
△ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

アジア

●上海愛斯佩克環境設備有限公司　※
●愛斯佩克環境儀器（上海）有限公司
●愛斯佩克試験儀器（広東）有限公司　※
●愛斯佩克測試科技（上海）有限公司
●ESPEC（CHINA）LIMITED
●ESPEC KOREA CORP.　※
●ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO.,　LTD.
△ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO.,　LTD.

日本

エスペック㈱　※
●エスペックアシスト㈱
●エスペックミック㈱
●エスペックサーマルテックシステム㈱　※
●コスモピアハイテック㈱　※

米国

●ESPEC NORTH AMERICA,　INC.　※

●印・・・連結子会社
△印・・・非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

ターゲット市場

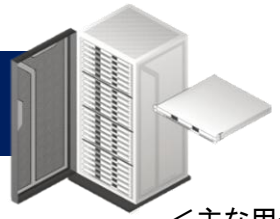
＜AI半導体市場＞　サーバー、半導体、電子部品、電子材料

生成AIが社会全体に広まるなか、AIサーバーやサーバーを構成する半導体、電子部品、電子材料の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



データセンター

AIサーバー



＜主な納入先＞
・サーバーメーカー
・ハイパフォーマンス
　コンピューティング（HPC）メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



AIサーバー向け
高発熱負荷対応恒温恒湿室

半導体

GPU・メモリ・ロジック

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー



＜主な用途＞
加速寿命試験
スクリーニング（検査）



急速温度変化チャンバー

電子部品

コンデンサ・半導体基板・電源

＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・半導体基板メーカー



＜主な用途＞
電気的特性評価（導通等）
動作試験



高度加速寿命試験装置
（HAST CHAMBER）

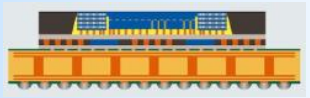


計測評価システム

電子材料

基板材料・絶縁材料

＜主な納入先＞
・材料メーカー
（基材、レジスト材、モールド材等）



＜主な用途＞
材料特性評価（吸湿等）
保存試験



バーンインチャンバー

ターゲット市場

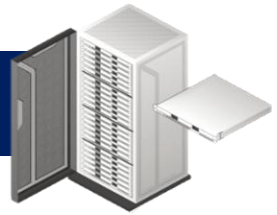
＜AI半導体市場＞　光電融合技術（CPO: Co-Packaged Optics）

光電融合技術は半導体と光通信用の光学コンポーネントを同一パッケージ基板上に統合する技術です。
サーバーの消費電力削減や通信速度向上に有効な技術として注目されており、
光学コンポーネントや実装技術の開発、信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。

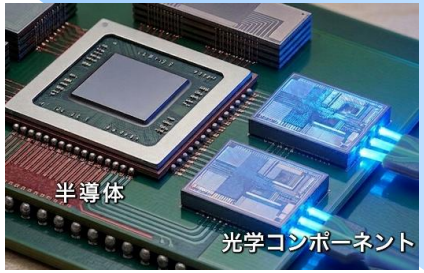


データセンター

AIサーバー



光電融合技術
（Co-Packaged Optics）



半導体と光学コンポーネントを
同一パッケージ基板上に統合

半導体
GPU・CPU

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・ファウンドリー



＜主な用途＞
パッケージ信頼性評価

光学コンポーネント
変調器、検出器、コネクタ

＜主な納入先＞
・電子部品メーカー
・電線メーカー



＜主な用途＞
耐久性評価（温湿度）
信頼性評価



冷熱衝撃装置



急速温度変化チャンバー



ハイパワー
恒温恒湿器



小型環境試験器

ターゲット市場

＜衛星通信市場＞　人工衛星（低軌道衛星）、人工衛星搭載機器・部品

民間企業の商用衛星通信技術の分野において、低軌道衛星（LEO）や人工衛星に搭載される通信機器や半導体、電子部品の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



人工衛星

低軌道衛星（LEO）

高度　　：数百～2,000km
地上エリア：半径 数百km

＜主な納入先＞
・通信衛星メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価



HALT/HASS　Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）

人工衛星搭載機器

電源装置・通信機器・姿勢制御

＜主な納入先＞
・電源機器メーカー
・通信機器メーカー
・観測機器メーカー

＜主な用途＞
耐久性（耐環境）評価
信頼性評価

人工衛星搭載部品

半導体・太陽光パネル・電池

＜主な納入先＞
・半導体メーカー
・電子部品メーカー
・電池メーカー

＜主な用途＞
認定試験
スクリーニング（検査）



HALT/HASS
Reliability Testing Systems
（HALT/HASS試験装置）



Global-N
Temperature Cycling Chambers
（温度サイクル試験装置）



Platinous Series
Temperature and Humidity Chambers
（恒温恒湿器）



冷熱衝撃装置



恒圧恒温（恒湿）器
MZシリーズ

【装置事業/サービス事業】全天候型試験ラボの紹介（神戸R&Dセンター内）

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン
オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

（2021年3月）

7つの環境因子（温度・湿度・雪・霧・雨・光・風）を高精度に制御・可変し、動的気象環境（刻々と変化する気象環境）を再現

■ 全天候型試験ラボ





試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例





①みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。

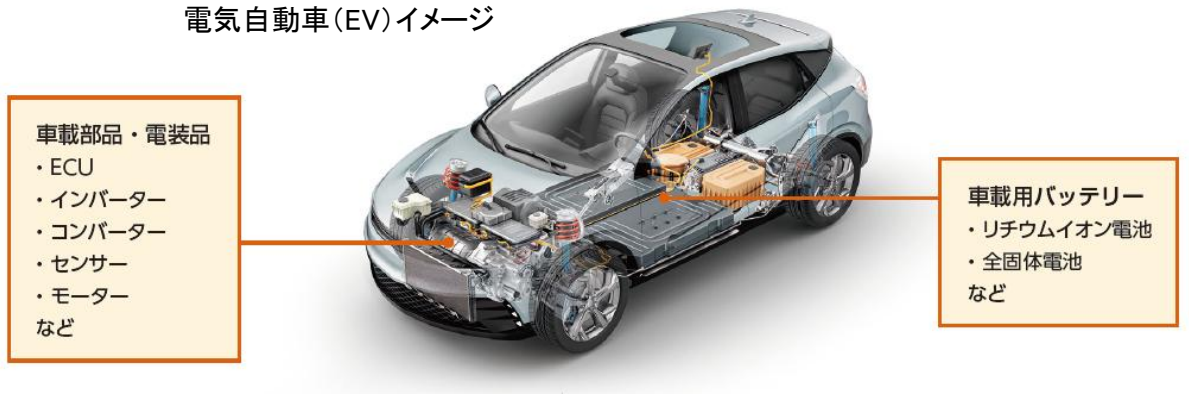
②雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

【装置事業】環境試験器の用途事例

部品・モジュール・完成品単位で繰り返し試験を
実施し、新技術・新製品の信頼性を確保

電気自動車(EV)イメージ



環境試験の代表例

デバイス	プロセス／試験条件		当社製品
【パワーデバイス】	検査	■冷熱衝撃試験　:－40℃⇔＋125℃	冷熱衝撃装置
		■高温放置　　:＋175℃、＋85℃	(小型)オーブン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】	検査	■基板の温度サイクル試験　　:－40℃⇔＋110℃	低温恒温器(プラチナス)／オーブン
		■はんだ付け後の温度特性試験　:－30℃⇒＋85℃をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■冷熱衝撃試験　:－30℃⇔RT⇔＋80℃、－55℃⇔＋155℃	冷熱衝撃装置
【CCD／CMOS】	生産	■拡散試験　　:＋150℃	小型オーブン
		■洗浄後の乾燥　:＋85℃	クリーンオーブン
	評価	■スクリーニング　:＋85℃	恒温器(プラチナス)／バーンイン装置
	検査	■温湿度試験　　:＋85℃／＋85%rh、＋60℃／90%rh	恒温恒湿器(プラチナス)
		■加速試験　　:＋120℃／100%rh	HASTチャンバー
		■冷熱衝撃試験　:－40℃⇔＋125℃、－20℃⇔＋85℃	冷熱衝撃装置

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2026年8月	CO_2冷媒「R-744」搭載 低温恒温（恒湿）器「プラチナスJシリーズ」 ハイパワー恒温（恒湿）器「ARシリーズ」	・欧州市場向けに計8器種を発売 ・GWP※の値が「1」と極めて低い自然冷媒であるCO_2冷媒「R-744」を標準搭載
2026年7月	低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」	・低電圧領域で発生する絶縁劣化に対応 ・微細化が進む先端パッケージの実使用環境における絶縁信頼性評価を実現
2026年7月	低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」	・試料に過度な負荷を与えない微小電流を印加 ・先端パッケージの接合部評価で求められる低電流印加と高精度測定を両立
2025年12月	高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー	・AIサーバーの高発熱負荷に対応 ・サーバーの信頼性評価試験規格ASHRAEに適合
2025年10月	高度加速寿命試験装置（HAST CHAMBER） 大型基板対応モデル	・AI半導体・自動運転分野の試験需要に対応 ・一度の試験で大量の試料を評価可能、試験効率を向上
2025年4月	超低温ショックフリーザー	・超低温-70℃の急速冷凍で生鮮食品の鮮度を保持 ・食品の冷凍、保存、解凍、再加熱までの工程を自動で完結
2025年4月	急速温度変化チャンバー ハイパフォーマンスモデル	・試料温度を20℃/分で勾配制御可能 ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合

※GWP：地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介①

■ 高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER)
EHS-222M-L

・2025年10月、高度加速寿命試験装置に、大型基板の試験に対応したモデル(EHS-222M-L)をラインアップ
・一度の試験で大量の試料を評価することが可能
・電子部品等の開発期間短縮と高信頼性の確保に貢献



高度加速寿命試験装置
EHS-222M-L

■ 急速温度変化チャンバー
TCC-151W-20

・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20℃/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
・低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載



急速温度変化チャンバー
TCC-151W-20

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介②

■ 低GWP冷媒搭載 低温恒温（恒湿）器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売

・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温（恒湿）器
プラチナスJシリーズ ECOタイプ

■ 低GWP冷媒搭載　急速温度変化装置を コスモピアハイテックが国内で初めて発売

・2024年10月、当社グループのコスモピアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売

・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置
プレミアムエクセレントシリーズ
（EC-28PXHH ）

※GWP：地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介③

■受託計測サービス
半導体パッケージや実装基板等の放熱設計や
熱解析CAEの精度向上に貢献 （2025年1月拡充）

＜熱変形計測サービス＞
・半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化
・リフロー炉の温度環境（−40℃～+260℃）に対応
・300mmサイズの大型基板サイズに対応

＜熱画像解析サービス＞
・恒温環境（−40℃～+100℃）下における供試品の温度分布を可視化



熱変形計測システム

■ −70℃でおいしく急速冷凍
超低温ショックフリーザーを発売

・2025年4月、−70℃の超低温で食品を急速に冷凍し、生鮮食品も鮮度を保ちながら保存できる「超低温ショックフリーザー」を発売

・低風速環境下での冷凍を実現することで、食品の乾燥を防ぎながら、保存、解凍、再加熱まで1台で完結



超低温ショックフリーザー

【装置事業】環境試験器の納入事例

■恒温（恒湿）室　建材用試験室の納入

＜用途＞
マンションの屋内（温湿度）と屋外（雨、雪、日射などの気象）の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温（恒湿）室　建材用試験室



恒温（恒湿）室は可動式になっており、
試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水（降雨）装置を装備し、
屋外の気象環境を再現します

【装置事業】エナジーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン
二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置

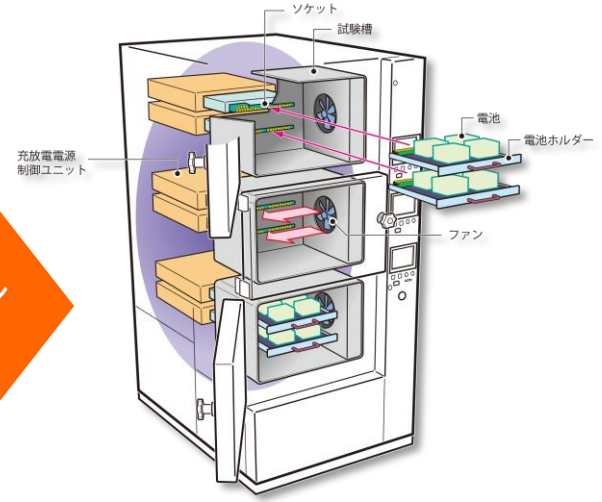


二次電池用充放電評価装置

二次電池



充放電サイクル
負荷



二次電池の充放電特性を確認

＜二次電池の性能や寿命を評価＞

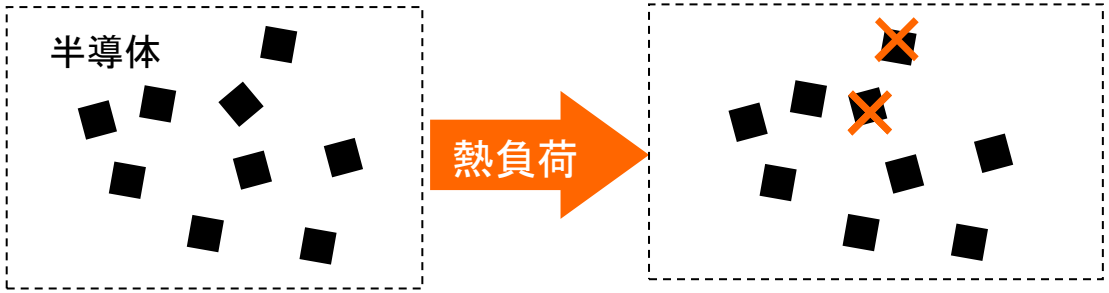
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除初期品質を確保



バーンインチャンバー



＜潜在的な初期故障を除去＞

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価

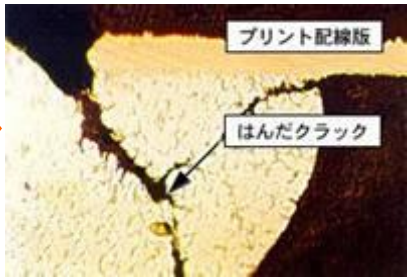


導体抵抗評価システム





はんだ接合部分の不良例



＜電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電気的に評価＞

【サービス事業】保守契約サービスの特長

装置の安定稼働

年1回サービスエンジニアが装置を確認・診断
摩耗部品を交換し、装置の安定稼働を支援

装置の遠隔監視／異常通報メール



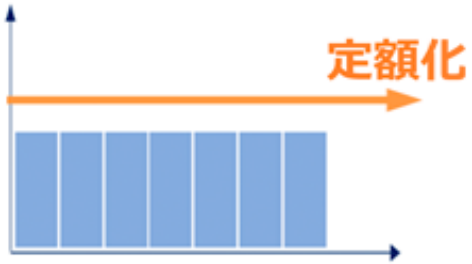
装置の運転状況をPCから確認可能
異常発生時にメールでお知らせ

ダウンタイムの短縮



装置データによる事前診断により
装置の異常をスピーディに解決

保全費用の定額化



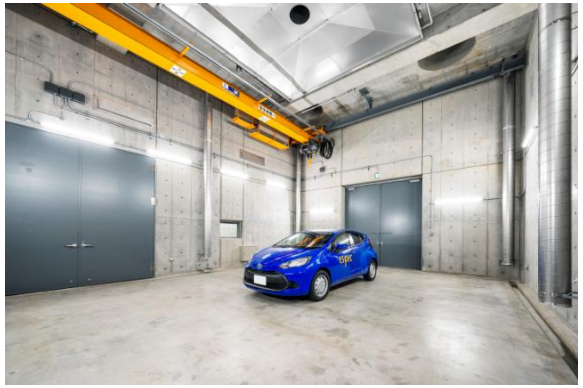
緊急の修理費用の発生がなく、保全費用の
定額化が可能。設備管理業務の手間も低減

【サービス事業】受託試験サービス

国内最大級　車載バッテリー専門試験所
「あいちバッテリー安全認証センター」

・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化、高容量化に対応

・大型の安全性試験室では、定置用バッテリーに求められる、熱暴走を想定した様々な安全性試験が実施可能



自動車が1台入る安全試験室

NITE※「公共調達・重要インフラ向け蓄電池システムの安全ガイドライン」
試験実施から認証までのワンストップサービス

※独立行政法人製品評価技術基盤機構

・テュフズードジャパンと協業し、5つの安全要件（耐地震波衝撃、耐類焼性、耐雨水水没性、耐塩水没性、耐落下性）に対応した試験の実施から認証までを一貫して提供

・重要な社会インフラである蓄電池システムの安全性・信頼性確保に貢献



耐火試験の様子

【その他事業】環境保全・植物育成装置

2025大阪・関西万博にて
会場の緑化およびアクアポニックス展示に協力

■会場に植物を植栽したマットや苗を提供

・「大屋根リング」には日本の在来種であるチガヤを植栽したマットやススキの苗を、「静けさの森」には野草や池の水際を縁取る水生植物を提供

・EXPOナショナルデーホールやハンガリー館、クウェート館、シグネチャーパビリオン等にも提供



大屋根リング

■「大阪ヘルスケアパビリオン」展示に協力

・大阪公立大学植物工場研究センターと連携し、アクアポニックスの展示に協力

・野菜栽培技術やノウハウを提供

アクアポニックスとは：水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせた循環型生産システム。魚類の糞尿を微生物に分解させ、野菜の生育に必要な栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または低減した野菜生産が可能。



アクアポニックス「いのちの湧水（いずみ）」

証券コード6859

参考資料

サステナビリティの取り組み

2026年11月20日
エスペック株式会社

エスペックのサステナビリティについて

当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。

企業理念

創業当時から伝わるエスペックの大切な価値観

企業理念「THE ESPEC MIND」（抜粋）

起 点	社会の公器として、 すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す
使 命	環境創造技術でより確かな生環境を提供
スタイル	プログレッシブ（進取的な）、リライアブル、オープン、フェア
宣 言	社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を特定

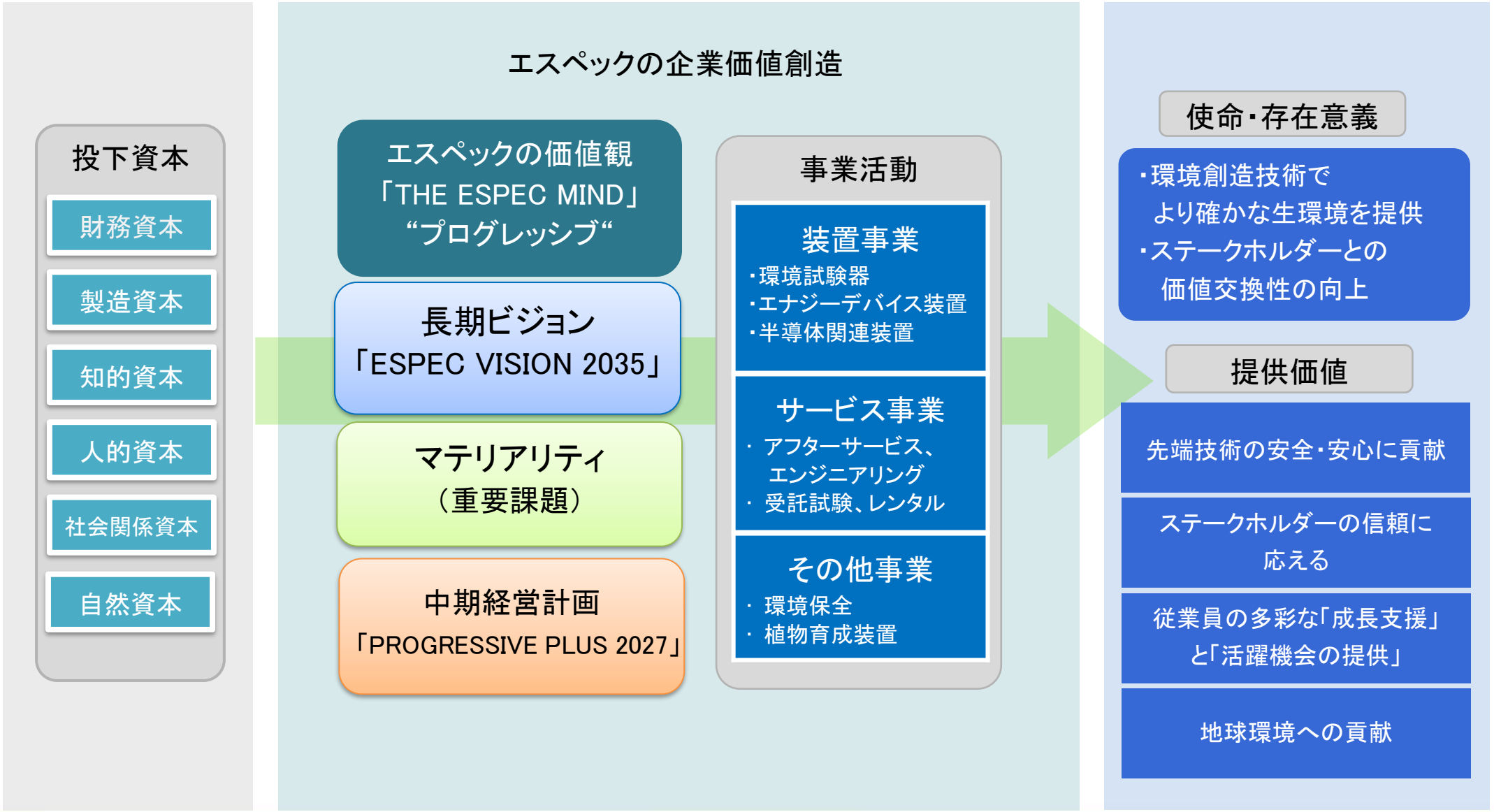
サステナビリティ方針

- ■ 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ■ ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ■ ESPEC VISION 2035のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- ■ サステナビリティに関する情報開示を積極的に行います

マテリアリティ

- ・グローバルな事業を通じた社会課題解決
- ・責任ある製品サービスの提供
- ・環境への配慮
- ・人材の確保・育成
- ・人権の尊重
- ・グループガバナンスの強化

企業価値創造プロセス


投下資本
財務資本
製造資本
知的資本
人的資本
社会関係資本
自然資本
エスペックの企業価値創造
エスペックの価値観
「THE ESPEC MIND」
“プログレッシブ“
長期ビジョン
「ESPEC VISION 2035」
マテリアリティ
（重要課題）
中期経営計画
「PROGRESSIVE PLUS 2027」
事業活動
装置事業
・環境試験器
・エナジーデバイス装置
・半導体関連装置
サービス事業
・ アフターサービス、エンジニアリング
・ 受託試験、レンタル
その他事業
・ 環境保全
・ 植物育成装置
使命・存在意義
・環境創造技術で
より確かな生環境を提供
・ステークホルダーとの
価値交換性の向上
提供価値
先端技術の安全・安心に貢献
ステークホルダーの信頼に応える
従業員の多彩な「成長支援」と「活躍機会の提供」
地球環境への貢献

エスペックの事業

装置事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エナジーデバイス装置

電気自動車（EV）などに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車が一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池用
充放電評価装置

エスペックの事業

サービス事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験・レンタル

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験サービスを提供。環境試験器のレンタル、リセールも実施




ITを活用したテクニカルサポート




再生可能エネルギー100%による受託試験サービス（国内）

エスペックの事業

環境保全事業

生物多様性保全への貢献

生物多様性やCO2の固定化に貢献する「森づくり」のほか、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、在来種による「草地づくり」など自然環境を復元する環境保全事業



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業

地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

温度や光などを制御し、効率的に野菜を生産できる植物工場や研究用装置のほか、水や養分を循環させて野菜と魚を一緒に育成するアクアポニックスなどのシステムも提供



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動応答実験設備
（鳥取大学 乾燥地研究センター）

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量（2019年度比）
SCOPE 1+2（自社排出） 60%削減、SCOPE 3（間接排出） 30%削減

■2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT(Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ
パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。
CDP、UNGC（国連グローバル・コンパクト）、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）が共同で運営

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

第8次環境中期計画Plus Ⅱ（2026年度～2027年度）

温室効果ガス排出量（2019年度比）
SCOPE 1+2（自社排出） 57%削減

＜重点テーマ＞
・地球温暖化対策の強化
・資源循環の推進と化学物質管理の強化
・生物多様性保全の推進
・開示情報の充実

生物多様性保全の取り組み①

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター
「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた屋上草地、
2つの池と小川からなるビオトープを設置

・ 2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録

・ 2026年4月には、「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞




表彰状

エスペック株式会社神戸R&Dセンター殿

貴殿は多年にわたり緑豊かな地域社会づくりに励み緑化の推進に尽くした功績は誠に顕著であります
よってこれを表彰します

令和八年四月二十四日

内閣総理大臣 高市早苗

「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」表彰状

※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

生物多様性保全の取り組み②

生物多様性保全活動「エスペック50年の森」

・2022年11月、兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくりを開始

・2024年4月までに全3回の植樹祭を開催

・2年間で社員などのべ約400名が参加、計12,000本を植樹



第3回植樹祭
苗は炭素固定・生物多様性機能をふまえて選定

エスペック地球環境研究・技術基金

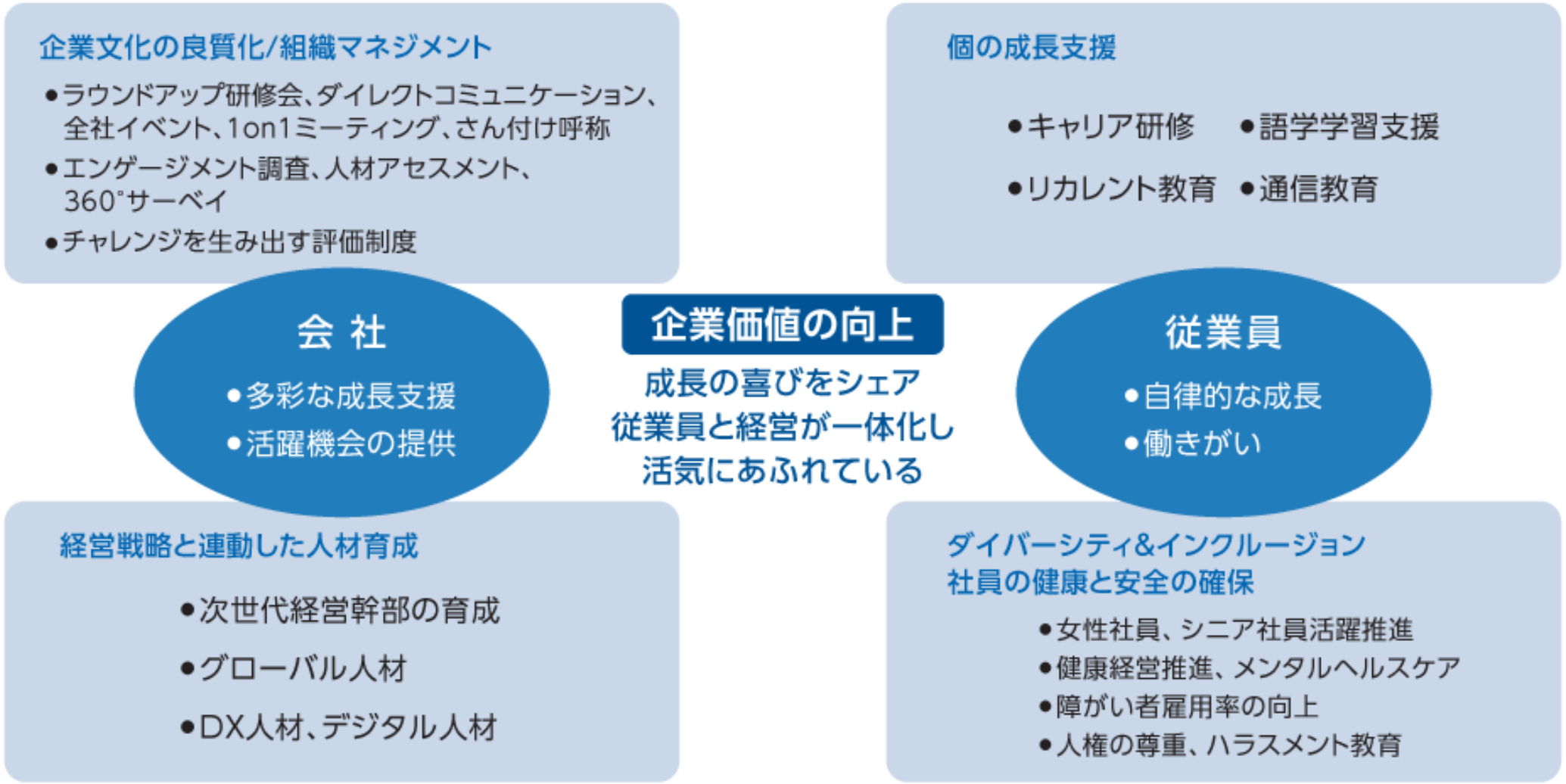
・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施

・1997年設立から28年間で、計361件、総額1億8,291万円を助成



第29回授与式

人的資本の最大化に向けた取り組み



社会貢献活動

従業員参加型の寄付制度「エスペックスマイルクラブ」

・従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度を活用し、子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
・2026年4月、特定非営利活動法人ジャパンハートへ総額1,403,900円を寄付

※「ジャパンハート」：国内外で無償の医療サービス提供を行う日本発祥の国際医療NGO

障がい者就労農園の収穫野菜を子ども食堂に寄付

・障がい者就労農園「エスペックスマイルファーム」※で収穫した野菜を地域の子ども食堂へ定期的に寄付

※2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に開設。
障がいのある方3名と管理業務を行う1名、計4名を採用



非財務データ①　環境

（年度）		対象範囲	2021	2022	2023	2024	2025
温室効果ガス排出量(t-CO2e)	SCOPE 1+2＋3	連結※2	883,400	1,098,905	1,048,332	1,292,432	1,282,803
	SCOPE 1※1		3,293	3,576	3,622	3,768	3,404
	SCOPE 2(マーケットベース)※1		4,248	3,717	4,285	5,563	5,855
	SCOPE 3		875,859	1,091,612	1,040,425	1,283,101	1,273,544
取水量・排水量(1,000㎥)	取水量	連結※2	77	92	99	129	109
	排水量		73	89	99	118	101
排出物総量(t)	総排出物	連結※3	1,701	1,207	1,282	1,185	1,159
	廃棄物		840	542	479	467	389
	再資源化物		861	664	803	718	769
フロン回収量(kg)		単体	3,208	3,695	3,471	3,115	3,200
製品リサイクルサービス(台)※4	累計金額	単体	431	473	482	489	433
エスペック地球環境研究・技術基金による助成(万円)	累計金額	単体	14,741	15,641	16,491	17,391	18,291
環境保全事業による植樹本数(本)		エスペックミック	53,132	80,650	60,314	39,593	45,833

※1 第三者保証報告書に基づく数値
※2 2023年度は、コスモピアハイテック株式会社を除く
※3 販売拠点である愛斯佩克環境儀器（上海）有限公司を除く
　2021年度は、上海愛斯佩克環境設備有限公司、ESPEC KOREA CORP.ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.を除く
　2022年度は、上海愛斯佩克環境設備有限公司を除く
　2023年度、2024年度は、コスモピアハイテック株式会社を除く
※4 環境省の広域認定制度の認定を受けて、使用済みの当社の環境試験器を有償で回収し再資源化

非財務データ②　社会

（年度）		対象範囲	2021	2022	2023	2024	2025
国内・海外 従業員数(名)※1	合計	連結	1,628	1,691	1,775	1,860	1,898
	国内		901	906	982	1,042	1,053
	海外		727	785	793	818	845
男女別従業員数(名)※1	合計	単体	770	778	790	838	845
	男性		643	636	633	663	659
	女性		127	142	157	175	186
平均勤続年数(年)		単体	19.1	17.2	17.0	15.3	14.4
平均年齢（才）		単体	43.0	41.2	41.4	40.3	39.7
離職率(%)※2		単体	1.6	1.4	3.3	2.3	1.8
平均残業時間(時間)		単体	15.5	22.6	20.1	21.9	20.7
年次有給休暇取得率(%)		単体	69.1	75.1	74.3	77.8	83.8
女性管理職比率(%)※3		単体	6.0	7.0	9.5	9.8	8.1
女性新卒採用比率（%）※3		単体	28.6	40.0	39.3	30.4	25.0
男女の平均賃金の差異（%）		単体	－	70.3	72.5	73.5	72.6
障がい者雇用率(%)※1		単体	2.50	2.47	2.37	2.46	2.35
育児休業取得率(%)	男性	単体	30.8	13.3	52.9	56.0	46.7
	女性	単体	100	100	100	100	100
教育投資額(百万円)		単体	－	101	129	135	125
ラウンドアップ研修会受講者数(名)※4		単体※5	343	856	485	375	496
ワークエンゲージメント※6※7		単体	－	－	－	B	B
エンプロイーエンゲージメント※6※8		単体	－	－	－	C	B
労働災害度数率(%)※9 ※10		単体	1.34	0	0.55	0	0

※1 各年度末時点　※2 定年退職者を除く　※3 翌年度の4月1日時点　※4 企業理念の理解と浸透を図るための研修会　※5 一部国内グループ会社を含む
※6 エンゲージメント調査における結果（S：大変良好、A：良好、B：標準的、C：要改善、D：至急改善）※7 仕事に対する主体的・前向きな心理状態
※8 会社や組織に対する愛着　※9　派遣社員を除く　※10 休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③　ガバナンス

（年度）			対象範囲	2021	2022	2023	2024	2025
取締役会※1	構成（%）	独立社外比率	単体	25	40	40	40	40
		女性比率		0	20	20	20	20
	出席率（%）		単体	100	100	99.2	100	96.9
監査等委員会※1	構成（%）	独立社外比率	単体	–	67	67	67	67
		女性比率	単体	–	33	33	33	33
	出席率（%）		単体	–	100	100	100	100
指名報酬委員会※2	構成	委員長	単体	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役
		独立社外比率（%）	単体	60	60	60	60	60
	出席率（%）		単体	100	100	100	100	100
内部通報件数(件)			単体	0	0	1	0	0
コンプライアンス問題の発生件数(件)			単体	1	3	2	2	0

※1　2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行
※2　2021年3月、役員人事と役員報酬について審議する任意の「人事諮問委員会」の名称を「指名報酬諮問委員会」に変更し、2022年3月に「指名報酬委員会」に変更

社外からの評価

■ ESG関連の評価

・ESG指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
　ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシェント指数」組み入れ

・CDP 気候変動分野の調査で「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」
　「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
　「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星

・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」 3つ星

・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞

・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得

・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
　「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

・「Gomez IRサイトランキング」 銀賞（業種別5位）

・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業

・「大和インターネット IR表彰」 優良賞

・ 日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」 最優秀サイト

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

【お問い合わせ先】
エスペック株式会社
サステナビリティ推進部　IR・広報グループ
E-mail　：ir-div@espec.jp
Webサイト：https://www.espec.co.jp/

Quality is more than a word

